議員定数・報酬等調査研究特別委員会 住民懇談会

令和6年8月25日（日） 14:00 芋川防災センター

出席議員（議席番号順）：三ツ井議員、中井議員、小林委員長、瀧野副委員長、
渡邊議員、中島議員、樋口議員、目須田議員、石川議員、
清水議員、伊藤議員、原田委員長、青山議長

住民参加者数：15名

司会：渡邊議員 あいさつ：青山議長、原田委員長 説明：瀧野副委員長

質問・意見等（発言順）

質問①

議員報酬について、議員活動の評価は誰がどのように行うのか。

回答①

議員活動を評価する場所はない。自身の評価としては、議会白書内で毎年、自身の振り返りとして評価を行っている。

質問②

議員定数の決定方法について、一番多いパターンが近隣の同規模自治体を参考にして決めているとの事だが、全国的なガイドラインはないのか。

回答②

定数についての定めはなく、市町村の考え方で決定する。

質問③

減らそうと思えば徹底的に減らすことも出来るし、増やそうと思えばもっと増やしても良いという印象を受けた。最終的な決定は、町長か、議会か。

回答③

最終的には議会で決定する。地方自治法の改正前は、人口1万人から2万人未満で定数の上限が22人と決まっていたが、今は撤廃されている。

質問④

地方自治法の規定がなくなったという事か。

回答④

その通り。

質問⑤

江藤教授の講演会で、議会は住民自治の根幹であり、住民の意見に振り回されてはいけない、一度定数を削減したら増やすのは厳しいという話であった。今回、14人にした根拠は常任委員会の人数ということだけか。

回答⑤

資料9ページの通り、採決をとった結果によるもの。最終的には住民懇談会でいただい

た意見を参考に、12月までに議論を重ね、変わってくる可能性もある。

回答

現在は15人で活動をしており、積極的に定数を減らしたいといった意見はない。ただし、議論の中では同規模自治体と比較すると、若干人数が多いと思われてしまう。住民アンケートでは65.4%の方が減らすべきだと考えていることを受けて。どのように対応していかなければならないのかということを含めて、定数について議論した。その中で常任委員会の人数を6人にして、2委員会（12人）で議長を足して13人という考え方。今は飯綱町議会では、議長は常任委員会に所属していないが、所属出来ることになっているので、議長を常任委員会に所属させて14人という考え方も出た。ちなみに全国町村議長会の調査では、議長が常任委員会に所属しているのは69.8%。

質問⑥

政務活動費の現状はどのようになっているか。

回答⑥

政務活動費は、現在自粛となっている。

回答

前回の報酬審議会の中で報酬として増額ではなくて、活動をする議員には月1万円、年額12万円の政務活動費を支給するという事になった。その後、使用していたが途中で、議員の中で使用の方法を間違えたということで新聞報道された経過があり、現在自粛となっている。ある議員がチラシを配布したが、政務活動費は条例で月1万円を限度という文言があり、その議員が弁護士に問合せをしたところ、その様に記載されていれば、月1万円以上使用した場合は条例違反ではないかという判断されたとのことであった。それに対して、議会としては、県の顧問弁護士と町村議長会の弁護士に飯綱町の政務活動費の条例の解釈について問い合わせをした。回答としては、この条文では、どちらにも取れるという話であり、条例は町で作っていただいたものなので、町の方で条例を直して頂くということで話が進んでいる。

意見

使って活動している人には上乘せして払われるのは当然だと思う。

意見

議員の中で定数について、それぞれ悩まれたと思うが、それぞれの議員の考え方を、住民にどの議員はどう考えているのか、具体的に示していただくのも一つの案ではないか。

質問⑦

議員定数と報酬は直接的に結びつくものだという認識でこのような資料の書き方なのか。報酬が低いから議会が成り立っていないように見える。議論としてきちんと分けてすべきである。

回答⑦

定数と報酬の問題を一緒に考えるべきではないという事は、江藤教授からも言われて

いる。資料では、住民アンケートの結果の回答パターンで、定数を下げてその分、報酬を回したら良いのではという意見が 28.7%であった。委員会の中でも定数と報酬を分けてやってきたが、議論の経緯をお伝えする際に、定数と報酬を重ねるということではないが、資料では一緒に出した方が良いということでお示した。

質問⑧

アンケートの中で、議員に期待することに、議員の資質向上が 21.1%から 24.5%に増えている。その他の意見は趣旨から言ってその通りだと思うが、議員の資質が非常に低いんだとすれば、報酬をあげようという発想は出てこない。信頼するに足りないと言う意味であれば、その部分をどうするのかという基本議論に立ち返って考えるべき。報酬に関しては、議会に権限があるので、報酬を上げてもらうことは少しも反対することはない。確かに低いと感じるが、生活給を出しているわけではない。そのあたりをどう考えるか。

回答⑧

アンケートについては、平成 28 年に行ったものの追跡調査も兼ねて、同じ項目で実施した。議員の資質向上については、真摯に考えていかなければならないと反省をしている。

回答（ここまでの質問者全員に対して）

議員の評価については、議員同士で相手の評価をすることは出来ない。住民の皆さんからの選挙で出てきた人に対して、お互いに良い悪いという評価は出来ない。その反面、議会日よりモニターで年 4 回、ご意見を頂いている。中にはかなり鋭い意見もあり、そういうものは全員協議会の中で話し合い、反省をしている。

定数については、以前は地方自治法で段階別に定められていたが、今は議会の中で決めるということになっている。議員の大きな仕事の一つは「議決」。町長は提案者で、議会の議決を受けていけば責任は逃れられるが、議会は責任を取らなければならない。もう一つは「チェック機能」。予算議会で議決したことに対して、その事業がしっかり進められているかをチェックする。もう一つが「提案」。住民の要望を町へ提案する。これらを実行するためには議員定数が非常に重要になってくる。男女別、職業別、年齢別等のバランスの取れた皆さんに議会に出てきていただき、多様な意見を議会に出してもらうことが非常に重要になってくる。

議員の資質の問題については、皆で上げていかなければならない。勉強会や視察をしなければいけないと思っている。飯綱町議会は先輩議員が行ってきたことが認められて、今まで、全国から 400～500 件の視察が来ている。そういう所もあることだけ皆さんにご理解頂ければ有難い。

質問⑨

議会としてしっかりやっている自負があるのであれば、定数を減らして報酬をあげるという意見になぜ怒らないのか。しっかりやっていたら、相応の報酬をもらうのが当たり前である。議会に対してお金を使いたくない、しっかり働けという議論になってくる。少し報酬を上げてもらいたいから、1人減らしてその分だけ上乘せしてもらうというのは、

住民の代表とは思えない考えである。資質が足りないと言われて、確かに質が低いと議員皆で認めているなら、報酬増額というのはあり得ない。少し立ち入って、ご意見を聞きたい。

回答⑨

定数については、議会で本会議に提案をして決める。報酬は、議会でも決められるし、町長が諮問した報酬審議会でも決められる。私たちは、自分達がお手盛りで報酬を決めるということは、あまり良くないという議論の中で、報酬の決め方については、町長に要望をして、資料を揃えて、報酬審議会を開いて決めて欲しいという事で進めたい。資質については、怒っている議員も大勢いると思う。そういう思いがあるのなら、自ら議員に出て頂きたいという意見もあったが、そこまで言うてはいけないと思う。議員に出るには非常に大変であるので、地域で出た人にはしっかりとバックアップをして頂いて、優秀な議員を出していただきたい。

回答

今回の説明資料には定数と報酬を一緒に書いているが、議論は全く別に行っている。例えば定数に関しては、視察先の岐阜県養老町では議員定数についてのみの特別委員会であり、その議論の中の定数を考える5つの視点について、我々も同じように検証した。自治体規模、意思決定、監視機能、社会状況、目指す議会像という観点からも議論した。途中、報酬とクロスする議論はなかったと思う。また、住民アンケートのクロス集計で、定数と報酬をセットで考えている住民が多いという事で資料を入れているが、議会費の割合を見て頂いても、一定ではない。特別委員会の中では全く別で話し合いを行った。資質に関しては、議会日よりモニターのアンケートの中で、これまで資質については、ほとんど意見は無かった。無投票当選に終わった直後の3回分の議会報モニターの意見のなかで、モラル・資質に関して発言された方が10名程おり、この時期に資質について、かなり意見があがったということが事実である。

質問⑩

どうやって議員のなり手を確保していくのか。多様な民意を反映させるべきだという話だが、定数を減らせば、多様な意見は反映しづらくなる。実際に会社に勤めていると議員をやってみようと思う人はいない。非常にハードルが高い。最近では報道で一部の議員が不届きな事をしていて、議員はいらないという意見が出てきているだろうが、飯綱町議会では、自分も議員をやってみたいと思わせる様な工夫や、勤めている人が議員になれるような取組もあると思う。また民間企業では先輩職員がなぜこの会社に入ったのか、どういう仕事をしていて、こんなにやりがいがあるなどを生の声で語らせて、YouTubeで発信していくということが行われているが、一種のリクルート活動のようなPRは行っているか。

回答⑩

なり手不足については、議員の中でも色々な考えがある。地域から前任者の後任とし

て議会に参画している人もいるし、長年、地区から議員が誕生していないのでやってみないかと言われて立候補した人もいます。議会の中でも、議員になってもらう人をどのような形で人選を進めていくか、地域として立候補の支援を出来るかということのをこれから議論させていただくことになる。リクルートのような方法については、参考にさせていただきます。

回答

効率的な議会運営については、タブレットも導入され、今までは紙の資料で検索するのにも非常に時間がかかっていたものが、電子化されたことによって、効率性はあがっている。また、多様な人に参画して頂くということで、飯綱町議会では会議規則の変更も行い、パートナーの出産のときに休めるという欠席事由等を増やしている。また、本会議をオンライン化することは地方自治法上、難しいが、各常任委員会をオンライン化している議会もあるので、そういった検討もこれからしたいと考えている。また、やりがいの発信については、ここまで広報広聴という部分が充実してこなかったという部分で、今は議会報調査研究特別委員会を通して広報を行っているが、このような住民懇談会で皆さんから直接ご意見を頂くと言う機会は非常に素晴らしいと思っているので、元々議論に挙がっていた、広報広聴の常任委員会化も含めて活性化させていきたい。そういう部分が皆さんに姿を見せていくことになるかと思う。

質問①

仕事をやりながら議員になった人はいるか。

回答①

いらっしゃる。

15 : 30 懇談会終了

以上